

# 【大分県 日田市】

## 校務 DX 計画

### 1. 学校 ICT 環境の現状

日田市は、大分県が構築した「大分教育ネットワーク」と、市が整備した地域イントラネット環境を用い、校務及び教育に係る各種ネットワークを論理的に分離した状態で活用しています。更に校務系ネットワークはインターネットに接続できる環境と接続できない環境に分離し、学籍情報等の機微な情報資産は、インターネットに接続できない環境でのみ使用することとしています。

校務系ネットワークは教職員のみが、教育系ネットワークは教員と児童生徒が利用できるように環境を完全に分離することで、校務系情報のセキュリティを確保しています。また教職員が自席で使用する校務系情報端末にはシンクライアントシステムを採用し、仮想化技術と組み合わせて使用することで、学校外においても安全性が担保された状態で校務を行うことができる環境を整えています。

一方で、校務系がインターネットに接続できないこと、また校務系と教育系が完全に分離されていることで、

- ・それぞれの環境で動作する情報端末を使い分ける必要がある
- ・校務系と教育系での情報のやり取りに手間がかかる
- ・名簿情報等の連携が簡単にできない

など、利便性よりもセキュリティ対策に重点を置いた環境となっています。

今後はセキュリティレベルを維持あるいは改善しつつ、教職員の負担軽減に向け、「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」に示された内容の実現に向けた学校 ICT 環境の整備を計画的に見直し、改善を進めていく必要があります。

### 2. 今後の取組

#### 2-1 校務系及び教育系ネットワークの統合

「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」に記載の内容については、その多くが「校務系と教育系の統合」を前提としていることから、まずは県内全体で、ネットワークの統合に向けた協議、取組を推進していく必要があります。

#### 2-2 統合型校務支援システムのフルクラウド化

既に大分県内は全ての市町村及び県において統合型校務支援システムの統一がなされているため、校務系と教育系ネットワークの統合に合わせて統合型校務支援システムをフルクラウド化することについては、今後、県内市町村が一堂に会する統合型校務支援システム共同調達協議会にて検討、協議していく必要があります。

統合型校務支援システムがフルクラウド化されることで、その名簿情報を教育系の各種システム等と連携させることが容易になり、毎年の年次更新作業等の大幅な簡略化が期待されます。

### 2－3 校務系及び教育系端末の統合

校務系及び教育系ネットワークの統合が実現すれば、校務系端末と教育系端末の統合が可能になると考えられます。合わせて校務系環境を無線化することで、校務のフリーアドレス化が実現するだけでなく、端末整備に係る予算の縮減につながることが期待されます。

しかしながら、フリーアドレスや端末の一本化についてはこれまで以上のセキュリティ対策や通信環境の安定化が必須となるため、引き続きシンクライアントシステムの活用による環境整備が望ましいと思われます。

今後も、日田市で採用しているシンクライアントシステムがネットワーク統合環境でこれまでどおりに利用可能なのか、抜本的な見直しが必要となるのかについては慎重に見極めを行う必要があり、引き続き情報の収集に努めます。

### 2－4 その他校務の DX に係る取組

「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」に記載がある押印の省略や FAX の廃止については、真に必要なもの以外は原則廃止を基本としつつ、廃止することがかえって教職員の負担増となることがないように、柔軟に対応していくこととします。